

北海道市長会の沿革

北海道市長会の発端は、明治43年11月14日仙台市で開催された奥羽六県市長会で、北海道の札幌区が加入し、**奥羽六県北海道市区長会**と改称されたことから始まる。翌年には、函館、小樽の両区が加入した（札幌、函館、小樽は明治32年10月1日に区制施行）。さらに大正に入り、大正3年に旭川、大正7年に室蘭、大正9年に釧路と順次区制が施行され、奥羽六県北海道市区長会に加入するとともに、北海道各区の市制施行を再三にわたり政府に要望を重ねた結果、大正11年8月1日に北海道各区に市制施行されたのである。これに伴い翌年の会議から奥羽六県北海道市長会と改称された。

また、昭和9年8月に帯広市が加入し、昭和16年10月には樺太豊原市の加入により奥羽六県北海道樺太市長会と改称された。続いて昭和17年7月に北見市が加入した。

昭和18年に地方行政協議会令の公布により、地方行政協議会が東北と北海道に設置された。このため、同年に開催された第38回奥羽六県北海道樺太市長会で、市長会も奥羽と北海道に分離するよう提案され了承された。また、同時に夕張市・岩見沢市が加入した。その後、戦争の激化に伴い、開催されず終戦を迎えた。昭和20年11月30日に総会が開催され、北海道市長会が独立した。

昭和22年4月5日に第1回統一地方選挙が実施され、公選の市長が誕生した（同年5月3日には地方自治法が施行）。これにより、同年4月22日公選市長による第1回の北海道市長会総会が札幌市で開催された。さらに、昭和22年11月14日開催の第2回全国市長会議で、全国9支部の設置が決定され、北海道支部が設置されることが明記された。また、同年には網走市及び留萌市が加入した。続いて、昭和23年4月に苫小牧市、昭和24年4月に稚内市、昭和25年4月に美唄市、昭和28年4月に芦別市、昭和29年7月には合併促進法施行に伴い、赤平市・江別市・紋別市・士別市が次々と加入した。このことから、昭和30年5月24日開催の総会において、会則の全面改正を行い、更に全国市長会北海道支部を兼ねることを明記した。

昭和30年代に入って、昭和31年4月に名寄市、昭和32年4月に三笠市、同年8月に根室市、昭和33年7月には千歳市・滝川市・砂川市・歌志内市が続けざまに加入した。

しばらく間があいたが、昭和38年5月に深川市が加入、昭和41年5月に富良野市が加し、北海道内は29市となった。昭和44年8月の総会において、事務局を札幌市から独立させるため会則を改正した。翌45年8月には登別市、11月には恵庭市が加入した。更に、昭和46年11月に亀田市、昭和47年4月には伊達市が加入したが、亀田市は翌年12月には函館市と合併し、全部で32都市となった。

一方、事務局の独立を機に、昭和45年には主管者会議を設置し、昭和48年には助役会議を設置した。さらに平成8年5月に参与会議を設置した。

平成8年9月には、北広島市と石狩市が加入し、全道34市となった。また、平成16年からの平成の大合併で、自治体の再編が行われ、平成18年2月1日に35番目の新市「北斗市」が誕生した。